

神奈川県立中原支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

| | |
|--------|---|
| 審議会等名称 | 令和7年度 中原支援学校 第2回 学校運営協議会 |
| 開催日時 | 令和7年10月22日（水）午前9時40分～午前11時30分 |
| 開催場所 | 本校 支援ルーム及び会議室 |
| 出席者 | 委員：8名（本校校長1名含む） 事務局：7名 |
| 会議資料 | ・学校評価（中間報告） ・卒業後の生活を考える |
| 議事録 | <p>1 開会・校長挨拶</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 部会に分かれて協議</p> <p>○学校評価部会（意見交換）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能の活用について、高等学校の場合すでに取組んでいることと共存しながら、住み分けを考えなければならない。 ・ホームページで紹介されている教材や授業風景については、学校でしか発信できない内容である。 ・地域資源を活用していくことは、相互理解のためには、必要なことであり、もっと広がると良い。 ・ICT機器の活用は、児童生徒にとっては、興味関心が高い。学びのきっかけになると良い。 ・不祥事防止研修で職員が集まってお互いに話し合うというプロセスが大事である。普段あまり話しをしていない人と話をする機会になっている。 ・授業の中で、音楽をすぐに流したい場面があるが、施設設備の面で課題があり、すぐに対応できない状況にある。 <p>○切れ目ない支援部会（意見交換）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路については、保護者もいろいろと情報を集めている。絶対評価で本人を見ていく必要がある。また、進路選択は、本人の意思で決めていくことが大事で、日頃から小さくてもよいので意思決定を積み重ねていく必要がある。 ・中学校とは、卒業後の進路に関することなどについて、特別支援学校と情報のやりとりができない状況である。 ・どこで働きたいかではなくて、どのような職種で働きたいかが大事である。 ・家庭内支援への積極的なかかわりが必要である。 ・医療的ケアが必要な生徒の進路先の受け皿が少ない。また、受け入れにあたり、進路先の看護師体制が組みにくくことも要因である。 <p>4 全体会</p> <p>○各部会からの報告を受けての意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能として、地域を対象とした学習会を夏季休業中に実施しているが、そのような活動が学校の役割を地域に認知されやすいのではないかと思う。 ・進路に関する保護者と学校との見立ての違いについては、保護者の受容の程度も関係していると思われる。進路を就労だけを考えるのではなく、「どんな人生を歩み |

たいのか」を考えることが大切である。

・子を持つ親として、学校から学習の結果を見せられても、どこかで親が一番理解していると思っている。

・「進路」という言葉より「キャリア支援」の名称の方が幅広く捉える考えができる、小学部から積み上げて取り組めるのではないか。

5 校長謝辞

6 事務連絡

7 閉会